

ばばただけ！
JTサンダーズ広島

竹田 英司

VC長野との松江大会初戦（11月14日）は、ヒーローインタビューを受けた八子大輔選手が「とても疲れました」と語ったほど、混戦の末に辛勝だった。

迎えた次戦の同15日、1セット目を落とした上に、負傷したエドガー選手の代役だった八子選手も



「代役の代役」として大活躍した金子選手
（11月15日のVC長野戦）



チーム救った「代役」

脚を負傷。絶体絶命となったJTサンダーズ広島をチームの末っ子、金子聖輝選手が救った。

2セット目から八子選手の代役として攻撃専門のポジションで躍動した。野球に例えれば、普段は控えの捕手が負傷したエースに代わってマウンドに登るようなもの。深津旭弘選手のトスからスパイクを打つ金子選手にどうにも違和感が拭えなかったが、高校時代はアタッカーとして何度も全国制覇した金子選手。昔取ったきねづかとはまさにこのことだ。

身内でさえ混乱したほどだから、相手チームも対策が立てられなかったことだろう。3セット連取して逆転勝利を収めた。勝利の瞬間、負傷した脚を気遣って歓喜の輪に加わらなかった八子選手に、そっと寄り添った武智洸史選手の姿に胸が熱くなった。

帰りの車内で金子選手から、おにぎりを手渡された。「たくさん食べてくださいよ。竹田さんにはたくさん働いてもらわないと困りますからね」。不器用な息子から精いっぱい感謝を伝えられた母の気分を味わった。

（JT広島マネジャー）